

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970102008
法人名	ドリームワークス有限会社
事業所名	グループホーム ドリーム
所在地	〒 400-0811 山梨県甲府市川田町367-1 電話番号 055-232-9889

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年2月25日

## 【情報提供票より】平成20年12月1日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤	1人 非常勤 9人 常勤換算 7.7人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	0 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	管理費 15,000 円
敷金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 100,000 ) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	0 円	昼食 0 円
	夕食	0 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1500 円		

## (4) 利用者の概要 平成20/12/1 現在

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	笛吹中央病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成21年2月10日

事業所は、幹線道路より中に入った静かな住宅地に位置している。隣地は広大な葡萄畑であり、四季の移ろいを感じ取れる所である。管理者は、経験に依る自信に満ちた運営をしており、自らの運転で、利用者と共にドライブすることを楽しんでいる。職員は、人生経験豊かな利用者から、他人への思いやりなどを学んだり、癒されたりしている。又、資格取得に挑戦して、レベルアップに努力している。利用者は、職員達のチームワークの良い支援を受け、ゆったりと暮らしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善項目である、同業者との相互交流については、職員会議で話し合わせ、実施されていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が自己評価に取り組み、職員会議で話し合わせ、管理者がまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では、主に運営状況の報告と、質疑応答であり、議題を基に話し合うまでに至っていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情箱を設置することや、意見が出やすい様に、家族への対応に配慮しているが、今のところ苦情が寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 管理者が、地域出身のため、日常生活において、関係が密に取れている。散歩時の地域の人々との会話、ホームへ子供たちの訪問、又、災害時には協力が得られることになっている。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホーム ドリーム

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な生活・人権の尊重・地域に根差した支援」を盛り込んだ地域密着型の理念を、開設当初より作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議時に、管理者から理念の意義の確認が必ず行われている。朝のミーティングの申し送り時に理念を確認し合い、家庭的な雰囲気の中で利用者が その人らしく暮らしていける様に支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事に参加した折、又、近所へ散歩時には、地域の人々が話し掛けてくれたり、季節の野菜や果物を頂いている。小学生が介護の学習のため、家族と共に訪れて来るなど、地域の中に溶け込んだ交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員が見て、確認し合っている。それを基に、管理者がまとめている。外部評価の結果をスタッフルームに置き、改善点を確認し、会議にて話し合いをしている。改善点である他事業所との相互交流を実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター・家族代表・自治会長・ドリーム代表の4名で構成されている。主に事業内容の報告と、質問等であり、議題を基に話し合うまでに至っていない。	○	構成メンバーを柔軟に考えて、固定化を避けるなどして、運営会議の機能を発揮出来る様に工夫することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	スプリンクラーの設置についての相談や、指導を受けている。必要があれば、市町村との連携を取る事になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	担当職員が、月一回の「ドリーム通信」に利用者の暮らしぶりや健康状態を書き、写真・金銭出納・行事予定を添えて送っている。職員異動についても、併せて報告したいと思っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に投書箱を置いたり、意見が出やすい様に雰囲気作りに配慮しているが、今まで苦情等は寄せられていない。なお、家族同士が集まり、話し合い、意見を出せるような機会は設けられていない。	○	家族同士で集まり、話し合える場をつくるなど、意見等を表しやすい機会づくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職があっても、利用者のダメージを防ぐため、職員同士で補い合うことや、ホーム内の雰囲気を保つ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員のレベルを考慮に入れて、外部研修に参加させている。職員会議の折に、研修受講者から伝達を行っている。新人の場合は、一か月位をめぐり、全体的な雰囲気慣れたところで、担当を持たせている。資格取得の自主研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へ一日実践研修に行き、相互のレベル向上のため努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族が、ホームに来て職員と顔なじみになることや、雰囲気慣れてから、サービス開始をしている。不安定な場合は、自宅に訪問し、顔なじみの関係を作る工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との関わりが、職員の気持ちの緩和剤になっている。利用者から「元気?」「いつもありがとう」の話し掛けがあり、他人への思いやりの心を学んだり、優しさを感じて、職員が癒されることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の態度・行動・傾向・会話などから、変化に気を付けている。気付いた事を連絡帳に記録して、スタッフ全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・利用者の話や、医師・看護師の情報を基に、管理者が原案を作っている。カンファレンスでの意見交換などで補足をして、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三か月に一回、見直しを行っている。状態が改善が見られるなど、変化した場合は、計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の買い物の付き添い、神社への初詣など、柔軟な支援をしている。又、家族が利用者を、ドライブに連れて行きたいなどの希望に沿う対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科の受診に、送迎の支援をしている。協力病院により、訪問診療がある。週一回の訪問看護師による健康チェックが行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの方針を説明すると共に、家族の考え方について確認している。重度化した場合は、出来る限り、ホームで対応して、看取りは、協力病院等の受け入れ可能となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重して、話し掛けや働き掛けを丁寧に行っている。トイレ誘導については、人前では言わないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れの中で、利用者の様子を見て、「歌を歌いたい」「散歩をしたい」などの希望に沿って支援している。希望が無い場合は、いくつかの選択肢を出して、希望が出やすいよう働き掛けをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりで食事が摂り難い利用者には、丁寧に声かけをして、支援している。食器を下げる、拭くこと、テーブル拭きは、利用者が行っているが、食事作りや配膳は、職員が行っていて、利用者は、椅子に座って待っている。	○	食事の一連の作業は、利用者の力が発揮されやすい場面なので、調理や配膳なども、できる部分は利用者と共に出来るように、声かけや働きかけの工夫に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に月・水・金が入浴日となっている。失禁時は、シャワー浴をしている。入浴を好まない利用者には、声掛けを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜(トマト・キュウリ・大根)を作ること・昔の教科書のカタカナ書写・塗り絵・計算ドリルなど、利用者個々の生活歴から培われた楽しみ事を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車イスの利用者も含めて、天気の良い日は、日常的に外出支援をしている。利用者の体調や、職員の勤務体制を考慮して、少人数グループの行動になっている。2週間に1度位は、ドライブ'に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	セキュリティとして、鍵を掛けている。希望により、いつでも出入り出来るようになっているが、実際には出入りする利用者はいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルが整備されており、年2回、避難訓練を実施している。緊急時には、「まず落ち着くこと」を日頃より管理者が言っている。夜間は、隣に住む管理者への連絡体制が整っている。水・食料の備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が、栄養バランスとカロリー計算のうえ、献立表を作成している。食事量の摂取記録があり、水分摂取のチェックも行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から居間、居室の廊下が一体感となり、明るく広々した空間になっている。フロアの一角は、畳敷きになっており、そこで洗濯物を畳んだりして、活動の場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	物入れ・テーブル・仏壇・家族の写真・作品など利用者の好みの物・使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫している。		